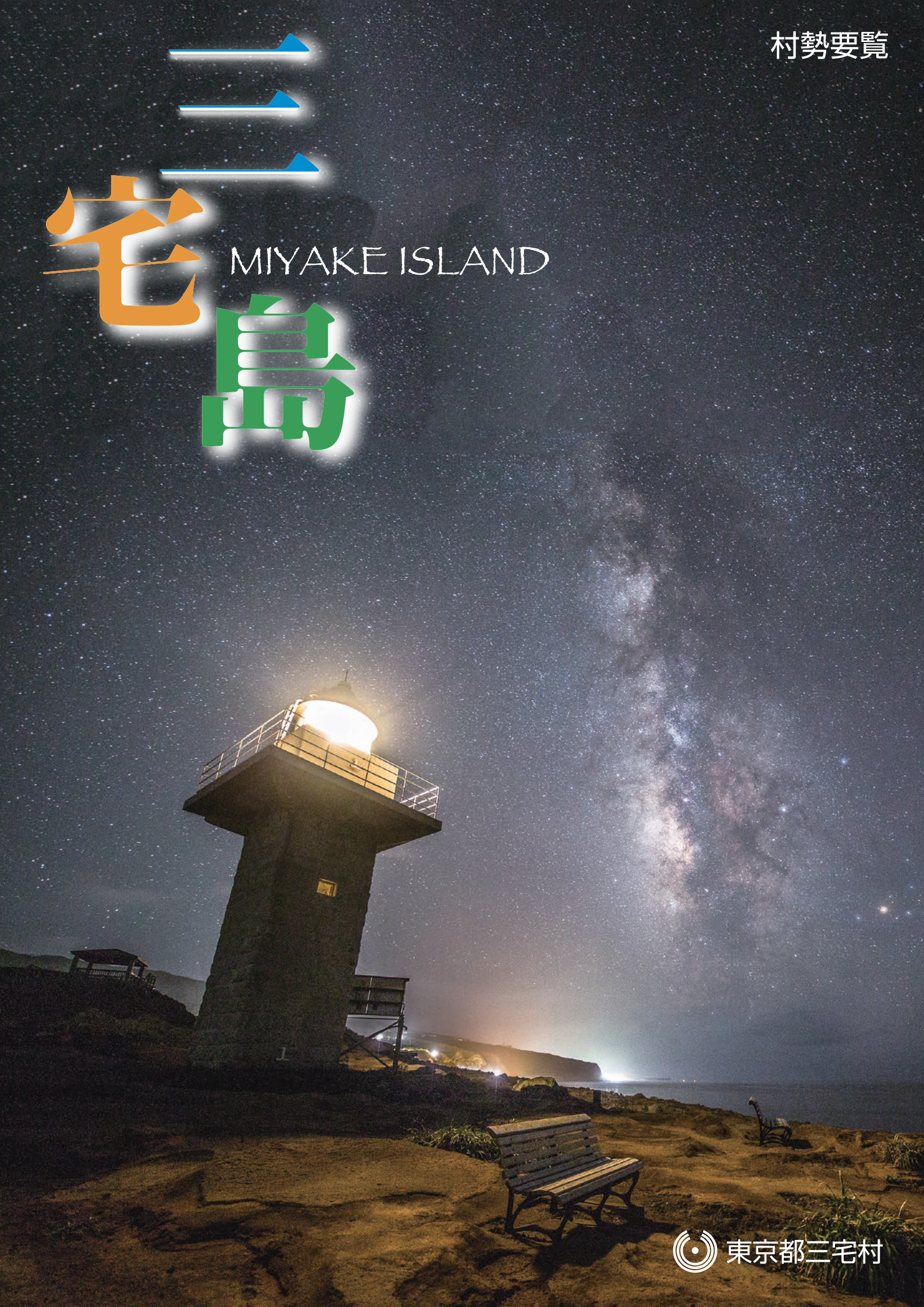
村勢要覧

三宅島

MIYAKE ISLAND



東京都三宅村

未来につなぐ三宅島
～心ひとつに三宅の創造～

三宅島は東京都心から南に180kmの太平洋にある伊豆諸島の島です。青い海と緑の大地、季節ごとに咲く花々が色彩豊かで美しく、時おり白い噴煙を立ち上げる雄山を見上げると、火山が生きていることを実感できます。

2000年の噴火災害から復旧・復興してきた三宅村は、次のステップへ向けた未来に希望が持てる村政を、第５次三宅村総合計画や三宅村村民憲章の精神に基づき進めてまいります。

この島で生まれ、あるいは新たに人生を切り拓く場として心豊かに生活し、家庭を育み、年老いても良かったと思える島づくりを進め、誰もが島に育ち島に生きることを誇りに思える三宅島を創り上げてまいります。

この村勢要覧が私たちの村、三宅村をご理解いただく一助となれば幸いです。

東京都三宅島三宅村長　**櫻田 昭正**

三宅村村民憲章

三宅島は紺碧の海に抱かれ、雄山が緑の裾野を美しく広げています。満天の星空、野鳥のさえずり、火山島ならではの景色など、ここにしかない自然の中に三宅村はあります。縄文の昔から人はこの島に生き、先人たちの智恵や文化は代々受け継がれています。今、この地に生きる私たちは、故郷に誇りと愛着をもち、一人一人が創意工夫をもって共に歩む道しるべとして、ここに村民憲章を定めます。

一　島（ふるさと）を愛し、明るく清清しい村をつくります

・自然環境を守り、自然の恵みに感謝します
・花を植え、木を育て、野鳥を大切にします
・暮らしのたたずまいを整え、清潔に保ちます

一　礼儀を重んじ、互いを敬う平和な村をつくります

・笑顔であいさつを交わし、感謝の気持ちを伝えます
・思いやりの心を忘れず、互いに助け合います
・人に迷惑をかけず、決まりを守ります

一　人情味あふれ、安らぎのある住みよい村をつくります

・家庭と地域で、子どもの健やかな成長を見守ります
・お年寄りや誰もが幸せに暮らせるよう、寄り添い励まします
・訪れた人を心温かく迎え、精一杯もてなします

一　歴史を大切にし、教養と文化が息づく村をつくります

・先人の歩みや地域に根づく文化を次世代に受け継ぎます
・教育を重んじ、道徳心、豊かな知性、感性を伸ばします
・常に向上心をもち、教養を深め、品性を高めます

一　輝く希望と夢を抱き、活気に満ちた村をつくります

・スポーツに親しみ体を鍛え、生きがいをもって健全な心を育みます
・誇りと喜びをもって働き、次代の担い手と共に明日と未来を築きます
・自然の厳しさから学び、火山と共にたくましく生きます

制定　平成二十七年七月吉日

大路池

約2,500年前の噴火口にできた周囲約2kmの伊豆諸島最大の淡水湖。周囲には照葉樹林が広がり、野鳥観察やトレッキングに最適です。すぐ近くには「アカコッコ館」があります。

東京から南へ約180km。壮大な大地と海に

概　要

三宅島は東京都に属し、人口2,538人、1,649世帯（平成30年1月1日現在）が居住しています。島内には神着、伊豆、伊ケ谷、坪田、阿古という計５つの集落が海岸沿いに点在しています。

島は活発な活火山で、約20～60年周期で噴火を繰り返しています。2000年（平成12年）に噴火した雄山からは依然として火山ガスが放出され、規制区域として立入禁止区域、危険区域が設けられています。気象庁の噴火警戒レベルは１となっています。

噴火跡などの力強い自然を体感できるとともに、約230種の野鳥を観察できるバードアイランドとしても有名です。美しい景観と貴重な生態系は、面積の約86％を規制する自然公園法によって保護されています。

富賀浜付近の海岸線

写真提供：東京都港湾局

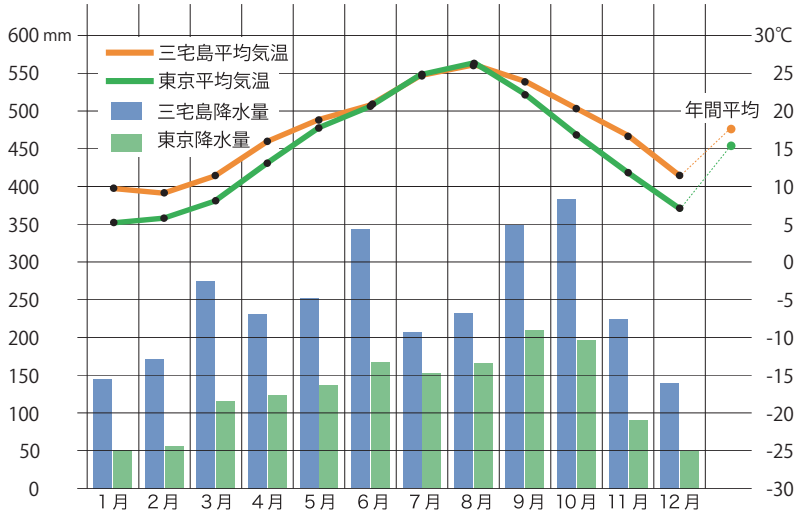
気　象

周囲を流れる黒潮（南西からの暖流）の影響により、温暖多雨な海洋性気候となっています。年間平均気温は17.7℃、真夏日の日数は平均で年間13.1日、最低気温が氷点下になる日数は平均で年間0.5日と、夏は涼しく冬は比較的暖かい気候です。

夏から秋にかけては台風、冬は低気圧の影響を受け易く、降水量は年間約3,000ミリで東京本土の約２倍となっています。多くの島・沿岸部と同様に風が強い地域で、年間を通して北東または南西の風が吹きやすくなっています。

ハマカンゾウ

■月別平均気温と降水量（東京比較）



■月別最低・最高気温

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
最低気温	7.0	6.6	8.8	12.5	16.0	19.2	22.9	23.9	22.0	17.9	13.7	9.4	15.0
最高気温	11.9	11.9	14.5	18.4	21.6	24.1	27.3	28.8	26.4	22.5	18.7	14.4	20.0

※データは気象庁より引用

囲まれた火山島。

MIYAKE ISLAND 三宅島

位置と地勢

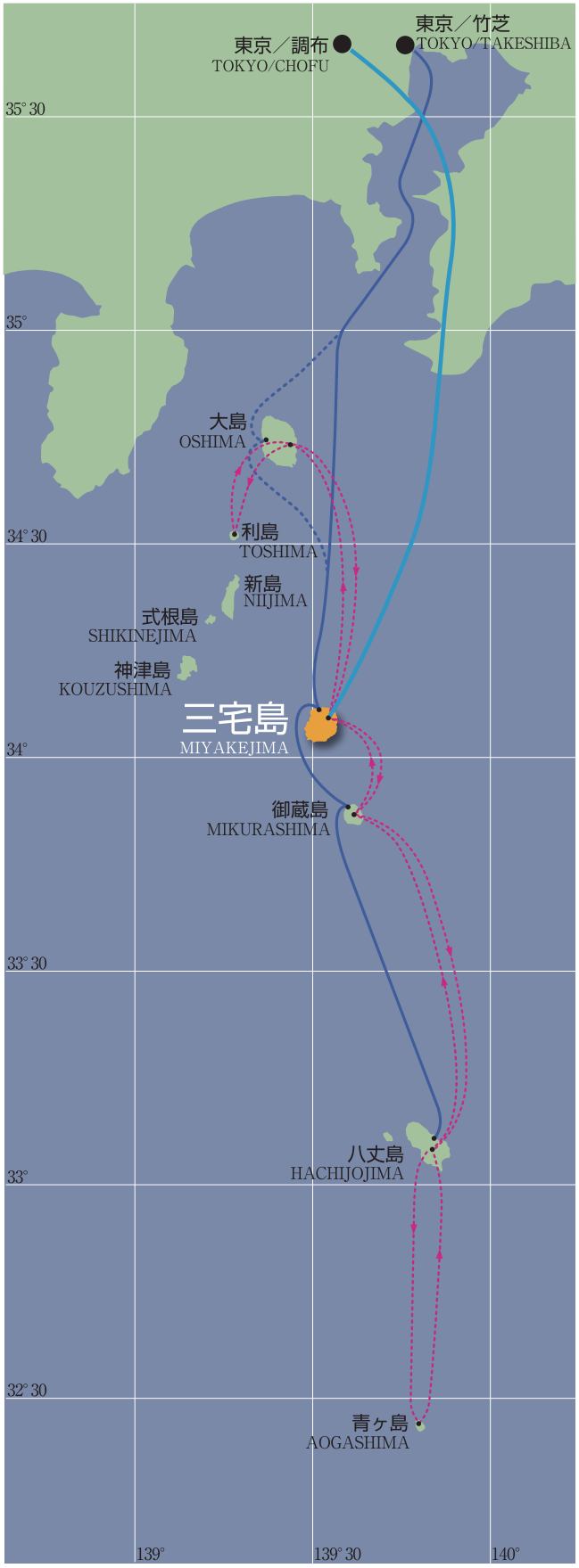
■位置と距離

東京から南に約180km、伊豆半島からは約80km 離れています。
（北緯 34 度 5 分、東経 139 度 30 分）

■地勢

直径約8km、周囲38.3km、面積55.26km²の楕円形で、島の中央部には雄山（標高 775.1m）があり、その火口の深さは約 500m にもなります。伊豆諸島では大島、八丈島についで３番目に大きな島で、ちょうど東京の山手線の内側くらいの大きさです。

主に玄武岩から成りたち、度重なる噴火でできた荒涼とした溶岩原は、荒々しい海岸風景と独特の自然景観をつくりあげ、島全体が富士箱根伊豆国立公園に指定されています。



交通アクセス

本土との交通には海路と空路があり、海路は大型客船で東京の竹芝桟橋から約6時間半、空路は飛行機で調布飛行場から約50分、ヘリでは御蔵島から約10分、大島からは約20分となっています。島内では公共交通機関として村営バスが運行しています。

■海路

＜大型客船＞東海汽船

竹芝桟橋発 22:30 → 05:00　三宅島着
三宅島発　13:35 → 19:40 竹芝桟橋着

※上り便が大島に寄港する場合は、20:45 竹芝桟橋着。

■空路

＜飛行機＞NCA 新中央航空

	調布発		三宅島（着／発）		調布着
1便	09:15	→	10:05／10:30	→	11:20
2便	11:10	→	12:00／12:45	→	13:20
3便	14:40	→	15:30／16:00	→	16:50

※季節、曜日による変更あり。

＜ヘリ＞東邦航空 東京愛らんどシャトル

御蔵島発　10:55 → 11:05　三宅島着
三宅島発　11:10 → 11:30　大　島着
大　島発　14:55 → 15:15　三宅島着
三宅島発　15:20 → 15:30　御蔵島着

■公共交通機関

＜村営バス＞

１日 10 便（右回り、左回り各５便）
その他、早朝に到着する船に合わせ、各到着港から右回り、左回りの便が毎日運行。

雄山を中心に、360°に広がるさまざまな史

三宅島マップ

三宅村神着老人福祉館
三宅島警察署
東京都三宅支庁
三宅村活動火山対策避難施設（伊豆避難施設）
三宅村立三宅小学校・中学校
東京都島しょ保健所三宅出張所
伊豆下
大久保漁港
大久保浜
三宅島役所（史跡）
三宅島農業振興会
三宅村交通公園
湯ノ浜漁港
湯ノ浜
下根崎
三宅村中央診療所
三宅村商工会（臨）
三宅村ふれあい児童公園
浅沼稲次郎生家
三の輪
御笏神社
三宅村立みやけ保育園
神着
砲台
釜の尻
伊豆岬灯台
伊豆岬
普済院
三宅村伊豆老人福祉館
小金井小次郎の井戸
御祭神社・東光山満願寺（薬師様）
椎の原生林
伊豆
椎取神社
赤場暁
ひょうたん山
火の山峠
大船戸湾
伊ヶ谷漁港
后神社
三宅村コミュニティセンター
不受不施派僧の墓
生島新五郎の墓
竹内式部の墓
大林寺
危険区域
スオウ穴
三七山展望台
三七山スポーツ公園
（休止中）
サタドー灯台
サタドー岬
伊ヶ谷
三宅村汚泥再生処理センター
三宅村クリーンセンター
六双根
通行止め
立入禁止区域
▲雄山
笠地観音
大鼻
夕景浜
三宅村火葬場
阿古集落跡展望
今崎
旧阿古小中学校跡（火山体験遊歩道）
三宅島郷土資料館
三宅村役場（臨）
メガネ岩
ふるさと体験ビレッジふるさとの湯
三池浜
三宅村役場（本庁舎）
三池港
三宅島空港
三宅村消防本部
錆ヶ浜
三宅島漁業協同組合
いきいきお魚センター
復興モニュメント
阿古漁港
阿古漁港船客待合所
（ここぽーと）
三宅島観光協会
三宅村交流センター
三宅村青年館
阿古
七島展望台
大路池展望台
坪田
ベンケ根岬
特別養護老人ホーム あじさいの里
茅場浄水場
富賀神社
富賀浜自然公園
間鼻
新澪池跡
新鼻新山
新鼻
三宅島自然ふれあいセンター
アカコッコ館
大路池
海蔵寺
二宮神社
東京都立三宅高等学校
三宅村シルバー人材センター
三宅村レクリエーションセンター
三宅島社会福祉協議会
坪田漁港
長太郎池
三宅村文化会館
東京都島しょ農林水産総合センター三宅事業所
ツル根岬
為朝打抜岩

三宅島観光復興モニュメント「シンビオシス」

「海」「島」「人」を中心の球形で象徴し、人が自然環境と共生して復興・発展する姿を表現しています。

ダイビングポイント
釣り場
バードウォッチングポイント

GEO ジオスポット看板（火山景勝地）

島内にはジオスポットを紹介する看板が25箇所設置してあり、過去の噴火跡を巡る、活発な火山島ならではのトレッキングを楽しめます。

跡と景色。

❶ひょうたん山

1940年（昭和15年）の海底噴火で一夜にして形成された火口で、赤錆色の山肌と青い海が印象的です。「新東京百景」の一つになっており、三七山展望台から一望できます。

❷火山体験遊歩道

1983年（昭和58年）の雄山の噴火により出た溶岩流の上に2007年（平成19年）、遊歩道が敷かれました。ここを歩くと、噴火の威力と自然の再生力を目の当たりにします。

❸三宅島自然ふれあいセンターアカコッコ館

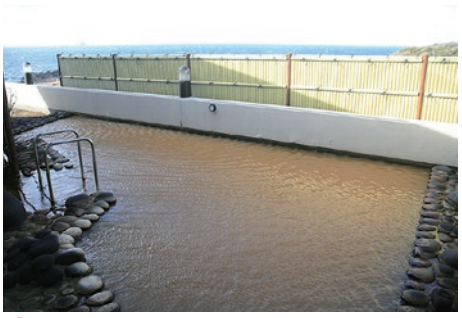
館内に設置された望遠鏡から野鳥の観察ができ、常駐している日本野鳥の会のレンジャーが島の自然や野鳥について説明してくれます。また、自然観察会などのイベントも開催しています。

❹七島展望台

古い時代の噴石でできた丘です。天気の良い日には伊豆大島から八丈島まで伊豆諸島が見渡せます。海と反対側には迫力ある雄山がそびえ立っています。

❺いきいきお魚センター

獲れたての地魚をはじめとした海産物のほか、明日葉製品などのお土産も取り扱っています。時期によってはイセエビやトコブシ、パッションフルーツなども販売しています。



❻ふるさと体験ビレッジ ふるさとの湯

島の西側にある源泉掛け流しの日帰り温泉施設。露天風呂からは太平洋に沈む美しい夕陽を眺望できます。隣接する「ふるさと味覚館」では島の食材を使った食事が楽しめます。

❼メガネ岩

今崎海岸の散歩道から見える奇岩は、溶岩流が波に浸食されてできたものです。かつてはメガネのように２つの大穴がありましたが、一方は崩れてしまいました。

❽三宅島郷土資料館

縄文時代からの三宅島の歴史・民俗と火山に関する資料を展示し、気象庁の協力により雄山火口の活動状況もリアルタイムで放映しています。館内には図書館も併設されています。

❾御祭神社 ・東光山満願寺（薬師様）

周辺には噴火前の貴重な自然が残り、原生林の中に鎮座するお社とお堂は荘厳な姿です。境内には推定樹齢数百年のスダジイの大木で、都の天然記念物になっている「堂山のシイ」があります。

❿伊豆岬灯台

1909年（明治42年）に建てられた珍しい角柱形の灯台。晴れた日には近隣の島々や遠く富士山まで見ることができます。野鳥や夕陽、満点の星空を見るポイントとしてもおススメです。

⓫大久保浜

全長約 2km におよぶ砂浜は、海水浴やダイビング、ウインドサーフィンを楽しむ人々でにぎわいます。隣接するキャンプ場 (4 月～11月限定) ではバーベキューなども楽しめます。

⓬三宅島役所（東京都指定文化財）

江戸時代に神官と地役人だった壬生（みぶ）氏の屋敷で、現存する木造建築では伊豆諸島最大・最古です（内部は非公開）。目の前には都の天然記念物となっているビャクシンの大木があります。

木々の中で、青い海で。かつてない大自然

観　光

観光需要の多様化や社会情勢の変化とともに観光客数は伸び悩んでいますが、新造船での快適な船旅や、航空路線の安定した就航により、これまでのバードウォッチング、釣り、マリンレジャーなどのリピーター客を確保しつつ、火山などの恵まれた自然環境を観光資源として最大限に活用するとともに、地形と自然を活かした「エンデューロレース（バイクレース）」を開催しています。サイクリングやウォーキングにも適しているので島内の産業ともリンクした魅力ある観光事業の展開に取り組み、積極的に情報を発信していきます。

バードウォッチング

国の天然記念物であるアカコッコやカラスバト、イイジマムシクイなど限られた地域でしか見られない野鳥が観察できます。また、沖合約 10km にある大野原島（通称：三本岳）の岩礁は、海洋に生息するカンムリウミスズメ（国の天然記念物）の貴重な繁殖場所となっています。

自然ふれあいセンター・アカコッコ館

アカコッコ

大野原島（三本岳）

野鳥の生息密度が高く、探鳥ポイントの一つである「大路池」の周辺は「日本一のさえずりの小径」とも言われています。隣接する「三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館」にはレンジャーが常駐し、野鳥観察のほか三宅島の自然や火山についても知ることができます。

カンムリウミスズメ

イイジマムシクイ

カラスバト

オーストンヤマガラ

ダイビング・海水浴

メガネ岩付近の海中アーチ

・ダイビング

透明度の高い海の中では大型の回遊魚や色鮮やかな熱帯魚、ウミガメなど様々な生き物と出会えます。サンゴの種類も多く、島の南西部の「富賀浜」には世界最北限のテーブルサンゴの群集があります。

また、「メガネ岩」付近には海中アーチがあり、海底でも火山島ならではの独特な地形が楽しめます。

三池浜

長太郎池

・海水浴

海水浴場は大久保浜、大船戸、錆ヶ浜、長太郎池、三池浜の5ケ所があります。なかでも長太郎池は太古の噴火による溶岩で囲まれた、約 50mの大きなタイドプール（潮だまり）で、魚やサンゴなどの観察に適しています。

の息吹と触れ合う。

海釣り

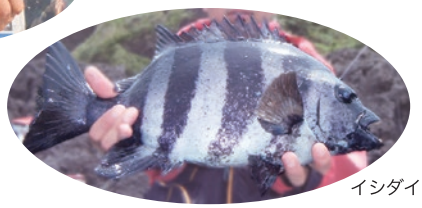
周辺の海域はイシダイやメジナ、ヒラマサ、シマアジなど、種類豊富な魚の宝庫です。何度も来島する釣り客が多く、断崖絶壁の荒磯釣りや本格的な船釣りも楽しめます。沖合約10km にそびえる大野原島（通称：三本岳）も大物が釣れるポイントです。

磯釣り

大野原島（三本岳）での釣り

ヒラマサ

メジナ


イシダイ

火山体感

三宅島は活発な火山島で、ここ100 年では 1940 年、1962 年、1983 年、2000 年と４回も噴火を繰り返しています。噴火は時に大きな災害となりますが、それによって生み出される独特な景観を目の前にすると、火山の驚異や凄まじさ、そして迫力ある地球の息吹を感じることができます。島内には溶岩原や太古の地層、火口跡などが点在し、島全体が火山博物館のようになっており、それぞれに「ジオスポット看板」を設置して紹介しています。

粟辺の溶岩流

新鼻新山

新澪池跡

泥流で埋まった椎取神社

クライミングウォール

2011 年（平成 23 年）に、廃校となっていた体育館に設置し、その規模と内容は全国の公共施設でも１、２を争うほど充実しています。

2016 年（平成 28 年）に、新たな壁を増設し、利用者は老若男女を問わず、島内の新しいスポットとして定着しつつあります。

自然と共存しながら、海や大地の恵みを育

漁 業

黒潮の影響を受ける好漁場を背景に、曳縄漁業（カツオ類・マグロ類）や底魚一本釣り漁業（キンメダイ・メダイなど）、刺網漁業（イセエビ・タカベなど）、採貝藻漁業（トコブシ・サザエ・テングサ・トサカノリなど）、定置網漁業（カンパチ・ヒラマサ・アカイカ・ムロアジなど）が操業されています。

噴火災害を機に漁獲量は減少傾向ですが、近年はキンメダイ漁が盛んになり水揚げの主要な割合を占めつつあります。また、延縄漁業によるクロマグロも水揚げされるなど、漁獲の回復が期待されます。

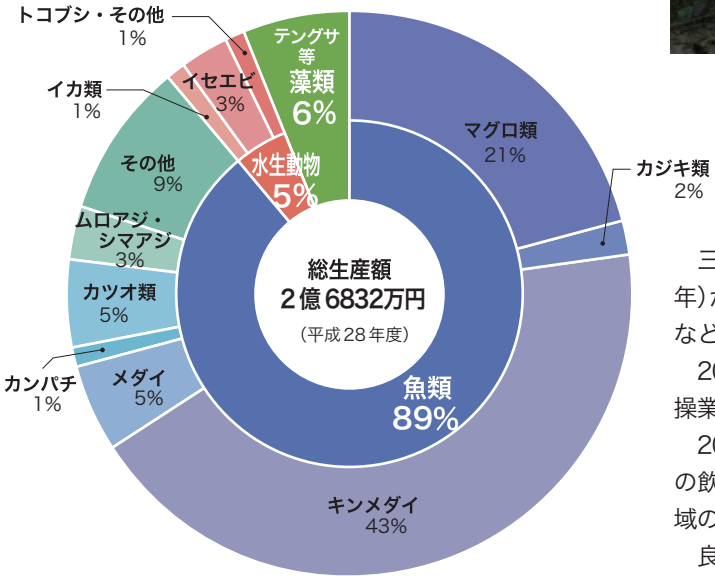
噴火による泥流被害を受けたテングサやイセエビ、貝類などの磯根資源については漁場の環境整備や稚貝放流などによる資源管理を行い、漁獲量の増大に努めています。

阿古漁港

キンメダイを荷造りする長期研修生

クロマグロの水揚げ

■主な漁獲魚種と生産額の割合



※グラフデータは東京都三宅支庁管内概要より引用。

三宅島漁業協同組合では、三宅村などの支援を受け、2012年（平成24年）から漁業の短期研修制度を開始し、翌年からは長期研修生を受け入れるなど、積極的に三宅島漁業の担い手の育成・確保に取り組んでいます。

2018年（平成30年）までの期間に、長期研修生３名が卒業し、独立して操業を開始しています。

2014年（平成26年）からは新中央航空の就航を機に、調布市や小金井市の飲食店などへ朝獲りの鮮魚を空輸出荷し始め、漁獲の販路拡大や多摩地域の交流という面からも今後が大きく期待されます。

良好で持続可能な漁業環境を整えるため、生産基盤の整備や島内外の流通促進、水産物の品質向上と生産拡大を図り、豊かな海と活気ある漁業の実現を目指しています。

加工技術の向上や販売方法の開発など個人、団体の活動も拡

島食材の加工品

島で獲れた新鮮なムロアジやトビウオ、シイラなどの一部は、すり身、燻製などに加工販売され、岩ノリやテングサなどは乾物として販売されています。また、アシタバはお茶、粉末、アイスクリームなどに加工されています。

三宅村商工会の地産地消事業

島のアシタバを原料に「三宅漬（たまり漬け）」「あしたば炊きこみごはんの素」が開発・販売されています。噴火から10年、帰島開始から５年の節目には天皇皇后両陛下にも献上されました。季節限定でツワブキ、ニガタケを原料とした商品もあります。

ふるさと村民制度事業

商工会が事業主体となり、三宅村に愛着を持つ方の来島を促進し、広く応援・協力・宣伝していただくとともに、島の特産品を楽しん

む三宅島の産業。

農 業

噴火災害以前は海洋性の温暖な気候を活かし、アシタバやキヌサヤなどの野菜と、レザーファンやタマシダなどの切葉類を中心とした花き観葉植物の栽培が盛んでした。とくにアシタバは伊豆諸島最大（国内最大）の産地で、レザーファンとともに村の基幹作物となっていました。

現在も継続する火山ガスの噴出は農産物の多くに影響があることが確認されており、作物転換も視野に入れた営農再開の取り組みが行われています。復旧した農地では比較的火山ガスに強いアシタバや赤芽イモ（サトイモ）などの作付けが多くなっているほか、コルディリーネやキキョウランなどの切葉類もハウス栽培されています。また、火山ガスの影響を受けにくいパッションフルーツ栽培も始まり、新たな特産品として注目されています。

パッションフルーツ

キキョウラン

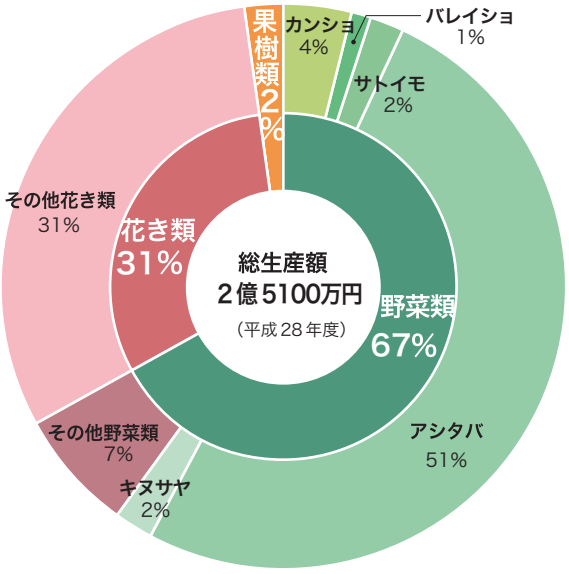
コルディリーネ

若い世代の後継者確保・育成に向けた就農支援として、三宅村担い手育成支援協議会が窓口となって短期・長期の農業研修などの相談に応じています。今後も、施設整備や既存農産物の安定供給と品質向上、新規農産物の開発などに取り組み、新規就農者にも魅力ある安定した農業経営を目指していきます。

アシタバの収穫

赤芽イモ（サトイモ）

■島で主に生産されている品目



※東京都農産物生産状況調査による。
※グラフデータは東京都三宅支庁管内概要より引用。

がっています。

でもらうことなどを目的としています。加入者には 様々な特典として、特産品や定期的な情報（広報等）の送付や各種割引などがあります。

島 市

島の特産品を島内外に広く普及させることを目的に、島内各所で年間を通じて５回程度開催されています。近年では島内行事として定着し始め、島民や観光客の交流の場として、また、新たな農産物の生産や特産品の開発にもつながっています。

三宅島産業祭

2012 年（平成 24 年）、三宅島産業祭が 13 年振りに復活しました。三宅島の農林水産業、観光業、商工業を広く紹介し、地域経済を活性化させるとともに住民の交流促進を図り、産業振興と地域振興へとつながっています。

伝説に彩られた数々の歴史。祭事や建造物

祭事と文化

島には昔から続いている行事が多く、正月行事の船祝いにはじまり、迫力ある神輿と木遣太鼓の「牛頭天王祭」、「富賀神社大祭（神輿渡御は隔年）」などがあります。時代とともに変化しつつも、島の文化・伝統として守られ、継承されています。東京都の無形民俗文化財にも指定された歌や踊り、神事もあります。

郷土芸能の島節、木遣（きやり）、太鼓、獅子舞、踊りなどは、各地区の芸能保存会や青年団などによって受け継がれています。また、学校の授業の一環にも取り入れられるなど、世代を越えて文化が伝えられています。

富賀神社大祭

獅子舞

牛頭天王祭

銅造観音菩薩立像

文化財

三宅島には国・都・村から指定されている天然記念物などの有形・無形の様々な文化財が多数あります。保存されている工芸品の一部は三宅島郷土資料館に展示され、旧跡・史跡などは観光資源として活かされています。また、次の世代に残していくためにアカコッコをはじめ天然記念物の保護にも取り組んでいます。

国指定文化財

重要文化財

■【工芸品】銅造観音菩薩立像（坪田・海蔵寺）

天然記念物

カラスバト、アカコッコ、
カンムリウミスズメ、イイジマムシクイ

東京都指定文化財

有形文化財

■【工芸品】銅製鍍金銚子、銅製提子、陶製黒釉瓶子、
銅鏡（鸚鵡双綬鏡外 10 面）（神着・御笏神社）、
銅鏡（籬二菊花双鳥鏡外 3 面）、銅鏡（菊花双鳥鏡外 32 面）、
銅鏡（菊花双鳥文）（伊ヶ谷・后神社）、銅鏡（松喰鶴鏡外 17 面）（坪田・二宮神社）、
銅鏡（蓬莱双鶴文外 1 面）、銅鏡（山吹双鳥文）

■【彫刻】木造楽面（2 面）（伊豆・御祭神社）、木造薬師如来坐像（伊豆・薬師堂）

■【古文書類】三宅島民政資料（303 冊、172 通）（三宅支庁・都公文書館）、
三宅島民政資料（107 点）

無形民俗文化財

■御笏神社の神事、御祭神社の神事、三宅島の歌と踊り、三宅村坪田のヨミンチャラ、
富賀神社の巡り御輿

史跡

■三宅島役所（神着）、三宅島大里遺跡（坪田）、三宅島ココマ遺跡（坪田）

天然記念物

■神着の大ザクラ、ビャクシン、堂山のシイ（伊豆・御祭神社）、
三宅島椎取神社の樹叢と溶岩流

の次世代への継承。

歴史と史跡

島内の各地区には縄文時代などの遺跡があり、その頃から人が住んでいたといわれています。江戸時代は幕府の天領（直轄地）となり、1878年（明治11年）に静岡県から東京府（東京都）に編入されました。「三宅村」は1956年（昭和31年）に旧3ヶ村が合併して誕生しました。長い歴史の中で繰り返す噴火を乗り越えて島は発展してきました。

江戸時代は流刑地として、約200年間に1,000人以上の人々が三宅島に送られました。中には様々な知識などをもつ流人もおり、島の文化に少なからぬ影響を与えました。歌舞伎役者の生島新五郎をはじめ、禊（みそぎ）教の教祖の井上正鉄（いのうえまさかね）、侠客の小金井小次郎、尊王思想家の竹内式部、絵師の英一蝶（はなぶさいっちょう）など歴史上の人物もおり、流人にまつわる史跡などは島のいたるところで見られます。

また、島にはいくつもの神話や伝説が残っており、神社の数も多くなっています。延喜式神名帳927年（延長5年）編成の全国の神社一覧によると、伊豆諸島にある24の式内社のうち12社が三宅島に集中しています。

小金井小次郎井戸

富賀神社

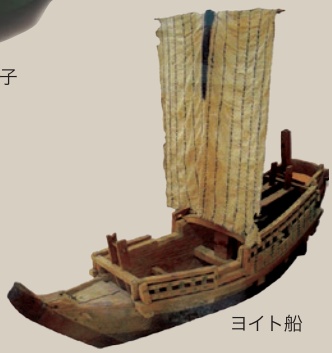
椎取神社

木造薬師如来坐像

陶製黒釉瓶子

銅製提子

銅製鍍金銚子



ヨイト船

三宅村指定文化財

有形文化財

- ■【彫刻】　善光寺式阿弥陀如来像（伊豆・普済院）
- ■【工芸品】　普済院銅鉦（伊豆・普済院）、ヨイト船、刀剣、御笏神社御刀（神着・御笏神社）、
- ■【古文書類】　小金井小次郎自筆証文（2通）、井上正鉄の書
- ■【建築物】　さかえばし

旧跡

■竹内式部の墓（伊ヶ谷・大林寺）、不受不施派僧の墓、小金井小次郎の首切り地蔵（伊豆・普済院）、井上正鉄の墓、生島新五郎の墓、小金井小次郎建立の地蔵尊（伊豆・曾利川墓地）、小金井小次郎井戸、処刑場跡

天然記念物

■坪田観音、大路藻、迷子椎、普済院の大桜（伊豆・普済院）、普済院の蘇鉄（伊豆・普済院）、ハコネコメツツジ、リュウビンタイ、オオシマハイネズ、ミヤケコゲラ、オーストンヤマガラ、タネコマドリ、モスケミソサザイ、ウチヤマセンニュウ、シチトウメジロ

自然の美しさや文化・イベント行事。四季折

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
イベント・祭り・観光	船祝い 成人式 出初式 鏡開き 武道初め	村民の日 節分祭（御笏神社） 初午（各地区） 三宅島ボルダリング大会	島市	大路池 バードウォッチング	三宅島バード・アイランドフェスティバル	メガネ岩ダイビング解禁

船祝い

バードウォッチング

旬の食材（地のもの・海のもの）

- キヌサヤ
- アシタバ
- 赤芽イモ
- ツワブキ・タラの芽
- ニガタケ
- イワノリ・ハバノリ
- ハマトビウオ
- 島アサリ
- イセエビ
- トサカノリ
- キンメダイ・メダイ
- アカイカ
- 春カツオ
- キハダマグロ・カジキマグロ・クロマグロ・メジナ
- カンパチ・シマアジ・サザエ

イワノリ

島アサリ

ツワブキ

アカイカ

アシタバ

ニガタケ

鳥ごよみ

- カラスバト／アオバズク／ミヤケコゲラ／モスケミソサザイ／タネコマドリ
- シギ・チドリの仲間／カンムリウミスズメ（4～5月）／サギの仲間
- イイジマムシクイ
- ノスリ／オオバン／カモの仲間
- ウチヤマセンニュウ（5～8月）

花ごよみ

春	夏
イズノシマダイモンジソウ、サルトリイバラ(実)、アオノクマタケラン(実)、ハチジョウイボタ（実）、ヤブツバキ ハチジョウキブシ、シチトウスミレ、ウラシマソウ、オオシマザクラ、オオバエゴノキ、ウツギ、トベラ、カジイチゴ（実）、ハチジョウグワ（実）	ガクアジサ サクユリ、

アオノクマタケラン

ハチジョウイボタ

シチトウスミレ

ウラシマソウ

カジイチゴ

ハマカンゾウ

※「イベント・祭り・観光」には、主催が三宅村以外の団体によるものも表記しています。また、イベントによっては開催時期が変更となる場合もあります。

々の楽しさ。

MIYAKE ISLAND 三宅島

7月	8月	9月	10月	11月	12月

イベント・祭り・観光

7月	8月	9月	10月	11月	12月
牛頭天王祭（神着地区） 三宅島マリンスコーレ21フェスティバル 三宅島OWS大会	盆踊り（各地区） 富賀神社大祭（隔年） WERIDE 三宅島 親子バイクキャンプ 島市	島市	メガネ岩ダイビング解禁	七五三祝（御笏神社） WERIDE 三宅島 エンデューロレース 産業祭 島市	

キャンプ受付開始（大久保浜園地のみ）

三宅島マリンスコーレ

WERIDE 三宅島エンデューロレース

産業祭

旬の食材（地のもの・海のもの）

- アシタバ
- キヌサヤ
- パッションフルーツ
- サツマイモ
- 赤芽イモ
- ・カメノテ・シッタカ
- 下リカツオ・キメジ
- イワノリ・ハバノリ
- （5月～7月）・テングサ
- イセエビ
- トビウオ・トコブシ
- キンメダイ・メダイ
- ムロアジ
- （5月～7月）・タカベ
- キハダマグロ・カジキマグロ・クロマグロ・メジナ

トコブシ

パッションフルーツ

タカベ

テングサ

イセエビ

赤芽イモ

鳥ごよみ

- ／アカコッコ／オーストンヤマガラ／シチトウメジロ／イソヒヨドリ
- （4～7月）／ホトトギス（5～8月）
- サギの仲間（9～10月）／シギ・チドリの仲間（9～11月）
- （4～9月頃まで）／オオミズナギドリ（11月頃まで）
- ／アマツバメ（9月頃まで）
- ノスリ／オオバン／カモの仲間

花ごよみ

	秋	冬
イ、ハマシャジン、ハマカンゾウ、スカシユリ、ハマオモト、ハマゴウ、シマホタルブクロ	タマアジサイ、センニンソウ、イソギク、ワダン、ツワブキ、オオムラサキシキブ（実）	

ハマオモト

ハマゴウ

センニンソウ

イソギク

オオムラサキシキブ

イズノシマダイモンジソウ

教育から、充実した福祉まで。「今」と「未来」

学校教育

豊かな自然環境の中で島の伝統文化に触れ、地域住民に見守られながら知性、感性、道徳心や体力を育んでいます。人間性豊かに成長して、故郷を誇りに思い、三宅島の未来を担う人材の育成に取り組んでいます。

三宅小学校

三宅中学校

タブレット端末を使った授業

保小中高合同音楽会

【三宅村立三宅小学校】【三宅村立三宅中学校】

2005 年の帰島後、小学校・中学校はそれぞれ３校から１校に統廃合されました。授業では少人数学級を活かした細やかな指導を行い、ＩＣＴ教育を推進してタブレット端末を導入するなど学力向上に取り組んでいます。また、島ならではの授業として海辺の生物などを観察する海浜教室や、シーカヤック体験なども行っています。この他、スクールバス運行や教育環境の整備も行っています。

【東京都立三宅高等学校】

普通科・家政科・農業科があり、敷地には広い農場も備えています。文化祭や球技大会、遠泳大会をはじめ、保育園、小学校、中学校との合同行事のほか、地域と協力して雄山への植林ボランティア活動なども行っています。

三宅高等学校

医　療

三宅村中央診療所（国民健康保険直営）では、一般診療、救急診療、訪問診療のほか、専門医の来島による各種専門診療（耳鼻咽喉科・眼科・精神科・呼吸器科・産婦人科など）を定期的に行っています。手術が必要など診療所での追加治療が難しい場合で、かつ緊急性の高い場合は、東京消防庁などの救急ヘリで都内の医療機関へ搬送されます。また、本土での高次医療が必要な特定疾病患者には渡航費支援を行っています。

2014 年（平成 26 年）から人工透析医療を開始するなど、誰もが安心して暮らせる島づくりに取り組んでいます。

救急ヘリ

三宅村中央診療所

人工透析室

社会教育

ソフトバレーボール交流大会

• 体育振興
　コミュニティセンターをはじめ青年館、体育館、グラウンドなどを利用して、野球・ゲートボール・サッカー・バレーボール・バドミントン・テニス・柔道・剣道・クライミングなどのスポーツ団体が活動しています。
• 文化振興
　郷土芸能保存会・青年団などの団体が伝統行事やイベントなどで活躍しています。その他にも、書道・華道・茶道や劇団などの各種団体が「三宅島文化会」を作り、年１回の発表会を行っています。また、文化会館を利用して、アンサンブルコンサート・映画・寄席などを開催しています。
• 生涯学習
　誰もが生涯を通じて学んでいけるよう、郷土資料館をはじめ図書館などの社会教育施設の充実に取り組んでいます。

高齢者福祉

特別養護老人ホーム「あじさいの里」

　三宅村は高齢化率が島しょ地域でも高く、「超高齢社会」を迎えています。豊かな高齢期を過ごせるよう、特別養護老人ホームや老人クラブへの助成のほか、医療・介護保険制度で対応できない日常生活用具の支援などを行っています。
　高齢者が健康や生きがいのために働ける環境づくりとして、三宅村シルバー人材センターへ援助を行い、高齢者の就業機会の拡大にも努めています。
　また、2014 年（平成 26 年）から一人暮らしの高齢者を対象にした「三宅村地域見守り事業」を実施しています。定期的な安否確認には IP 告知端末（テレビ電話）を活用し、福祉関連機関の団体とも連携を図っています。

敬老の集い

シルバー人材センターの活動

児童・母子福祉

　島内唯一の保育施設「三宅村立みやけ保育園」の他に、子育て家庭が気軽に集まって情報交換する場として、廃園となった保育園を活用した「子育て集いの広場」を設置しています。また、子育てなどの相談窓口として「三宅村子ども家庭支援センター」を 2012 年（平成 24 年）から役場内に開設しています。誰もが安心して子育てができる環境づくりを進めています。

みやけ保育園

子育て集いの広場

障がい者福祉

　「障害者総合支援法」に基づく各種サービスや村独自の事業として、身体障害者リハビリテーション事業や心身障害者タクシー料金補助を行い、障がい者が安全に安心して暮らせる社会づくりを進めています。また、自立や社会参加の促進として三宅村地域活動支援センター「いぶき」の活動や心身障害者地域緑化事業を、三宅島社会福祉協議会が中心となって行っています。今後も、権利擁護事業や成年後見人制度などを同協議会と協力しながら取り組んでいきます。

心身障害者地域緑化事業

より安心、より安全のための環境づくり。

水 道

三宅島は川がなく湧水もほとんどないため地下水を主な水源とし、５ヶ所の水源からは１日最大供給水量 3,710 ㎥の給水能力を確保しています。給水量の約半分をまかなう大路池周辺の地下水は硬度成分などが高いことから、茅場浄水場に導入したNF膜ろ過法で浄水し、その他の地下水は塩素消毒を行っています。

『安全な水が快適にいつでも使え、災害に強く環境に優しい、信頼される水道』を常に目指し、水質検査や施設の維持管理に努めています。

NF膜ろ過装置

茅場浄水場

環境衛生

【ごみ処理】 島内５地区で曜日ごとに収集された可燃ごみと不燃ごみは三宅村クリーンセンターで処理されます。焼却処理施設では7t/8hの焼却処理能力があり、焼却処理後に発生する焼却灰等は八丈島にある一般廃棄物管理型最終処分場まで運搬し埋立処分しています。粗大ごみ処理施設では不燃ごみや粗大ごみを破砕・選別処理後、缶類・ビン類・ペットボトルなどの資源ごみを再資源化のため島外搬出しています。また、リサイクル事業の推進やごみの減量化に対する意識啓発にも取り組んでいます。

三宅村クリーンセンター

三宅村汚泥再生処理センター

施設内部

圧縮された空き缶

【し尿・汚泥処理】 各家庭及び事業所などから収集運搬した、し尿や浄化槽汚泥は三宅村汚泥再生処理センターで処理されます。当施設は膜分離高負荷脱窒素処理設備に高度処理設備と資源化処理設備を備えた有機性廃棄物リサイクル処理施設です。処理過程で発生した汚泥は脱水後、助燃剤化され、三宅村クリーンセンターで焼却されるほか、生ごみと併せて発酵させ肥料を製造しています。

生活排水については合併処理浄化槽の整備を推進し、一部補助金を交付するなど環境保全に努めています。

道路と港湾

離島の三宅島にとって本土と島をつなぐ海路・空路は非常に重要な位置づけとなっています。生活の利便性と経済の活性化のためにも道路・港湾などの整備も同様です。

島内の交通手段は主に自家用車や公共バスとなっており、島を一周する幹線道路の都道をはじめ村道では、道路の拡幅や歩道設置などの整備が進められています。

【海路】 三池港、阿古漁港（錆ヶ浜港）の２港のほか避難港として伊ヶ谷港があります。就航は気象などによって影響を受けやすく、防波堤や港内の整備・改修などが行われています。2013年（平成25年）には阿古漁港船客待合所（ここぽーと）が新築され、新しい玄関口として住民と観光客の利便性が向上したほか、イベントなどの拠点としても利用されています。

【空路】 2014年（平成26年）３月をもって休止となった三宅島～羽田間の航空路線（全日空）に代わり、同年４月から三宅島～調布間の新規航空路線（新中央航空）が１日３往復で運航を開始しました。就航率も高く、住民の生活路線として、また、観光やビジネス面においても利便性が向上しました。

防災対策と情報通信

三宅村では、災害時の対応や津波危険区域などを示した「三宅島防災のしおり」「防災マップ」を全世帯に配布しているほか、海抜標示板を設置するなど住民の防災意識の向上に取り組んでいます。噴火や台風、津波などの様々な自然災害に対応できるよう、三宅村消防本部と5分団の消防団を中心に、住民の安全確保と災害対策の強化を推進しています。

また、現在も噴出が続く火山ガスを24時間体制で観測し、必要に応じて情報伝達する「火山ガス観測システム」を構築しているほか、災害などのあらゆる緊急情報を瞬時に伝達できる「全国瞬時警報システム（J-ALERT）」を導入しています。

消防団による一斉放水

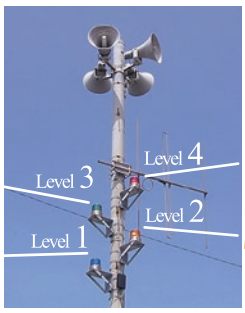
三宅村活動火山対策避難施設（伊豆避難施設）

海抜表示板

2011年（平成23年）、光通信網の整備にともない「IP告知端末（テレビ電話）」を全世帯に設置し、村からのお知らせのほか、船と飛行機の運航状況などの生活情報や火山ガス情報などを提供しています。また、災害時の通信手段としても欠かせない携帯電話の電波状況は、通話エリアが徐々に拡大され利便性が向上しています。今後は公共施設などのWｉ－Ｆｉフリースポット整備など、時代に即した情報通信の環境改善を進めていきます。

IP告知端末

島内各所に設置してある回転灯にご注意ください。



火山ガス状況に新たな変化がない限り、屋内にガスマスクを常備すれば外出時の携行は不要です。
立入禁止区域・危険区域には立ち入らないでください。

赤 レベル4　5.0ppm以上
一般警報

黄 レベル2　0.6～2.0ppm
高感受性者警報

緑 レベル3　2.0～5.0ppm
一般注意報

青 レベル1　0.2～0.6ppm
高感受性者注意報

●ぜんそく、気管支・肺に疾患のある方、心臓が弱い方、妊婦及び新生児・乳児の方は、二酸化硫黄に対する感受性が高いと考えられますので特にご注意ください。

回転灯付き屋外拡声子局

都道212号三宅循環線
（通称：三宅一周道路）

阿古漁港船客待合所（ここぽーと）

三宅島空港と三池港

三宅村の木・花・鳥

（昭和53年 2月1日指定）

三宅村の木＜椎＞

三宅村の花＜ガクアジサイ＞

三宅村の鳥＜アカコッコ＞

三宅村 村勢要覧
編集・発行■東京都三宅村 企画財政課 〒100-1211 東京都三宅島三宅村坪田 1774
三宅村役場臨時庁舎 〒100-1212 東京都三宅島三宅村阿古 497 番地 TEL 04994-5-0984 FAX 04994-5-0932
E-mail miyake03@vill.miyake.tokyo.jp URL http://www.vill.miyake.tokyo.jp
発行日■平成 30 年 12 月／印刷■明誠企画（株）